

発電できる便利さを実感しました



太陽光発電の利用者
高橋 隆さん(54)
＝衣川区野崎＝

ことし1月に太陽光発電システムを導入し、オール電化住宅にしました。灯油、ガスも利用するより経済的だと思います。導入時に補助金があり、助かりました。設置費用は、十数年間売電して元を取る計画です。

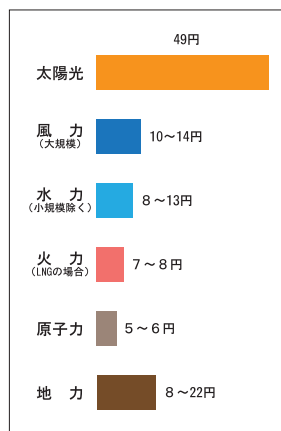
衣川区は地震の影響で3月11日から13日まで停電しましたが、発電のおかげで、テレビ、洗濯機、炊飯器、こたつ、携帯電話充電器を利用することができました。テレビを見られると情報量が違い、便利さを実感しましたね。蓄電システムを取り付けておらず、肝心の夜間に使用できなくて残念でした。私の家では4.3^{キワ}の発電量で設置しましたが、もっとパネルを増やして発電量を上げて良かったと感じています。

参考資料 日本における主要エネルギー源と発電コスト

火力発電は、日本の電気の約6割を占める主要な発電方法です。重油や石炭などの化石燃料を使用しますが、発電量を調整することができます。

原子が核分裂する際の熱エネルギーを利用する原子力発電は、二酸化炭素を出さず、燃料のウランをリサイクルして使えるため、資源を効率的に活用できるされる反面、慎重な放射線管理が必要です。

太陽光・風力・水力・地熱などの再生可能な自然エネルギーによる発電は、発電コストが他に比べて高い傾向にあります。今後の技術革新や需要拡大によるコストの低下が期待されています。



出典：エネルギー白書 2010



新エネルギーは未来をつくる

「新エネルギー」の時代がやって来る。そう感じさせる新聞記事がありました。『2010年の世界の発電容量は、風力や太陽光などの再生可能エネルギーが原子力を初めて逆転』。ことし4月、米国シンクタンク「ワールドウォッチ研究所」が、世界の原子力産業に関する報告書にまとめたものです。原子力発電は3億7500万^{キワ}。これに対して、風力、太陽、バイオマス、小規模水力の再生可能エネルギーを合計した発電容量は、3億8100万^{キワ}。地球温暖化対策で注目され、急激に増加しました。

水田が1万5725^{ヘクタール}、個人や組合などが所有する森林は2万6581^{ヘクタール}。地域資源に恵まれた本市で始まった2つの取り組みは、最初はエネルギーをつくるのが目的ではありませんでした。この豊かな地を荒らしてはいけません。生かして、未来へつなげる新しい産業をつくりたい。その強い思いが「新エネルギー」の取り組みを生み、長年に渡る活動の支えになってきました。

産業として成り立つためには、多くの人の関心を持つてもらわなくてはなりません。エタノール化事業の転機は平成21年度、民間企業の(株)まちづくり奥州の参画でした。「まちなかを生き生きと、明るくする取り組みだと思った」と、小澤正一代表取締役は語ります。発酵について指導をいただいた東京農業大学の鈴木昌治教授の下では、本市出身の学生が学び、ふるさとに研究に訪れる予定もあるそうです。課題はまだまだあるものの「新エネルギー」をとおり、農業者、民間業者、研究機関、大学、農業協同組合など、たくさんの方が集まり始め、少しずつ、みんなの気持ちも熱を帯びてきています。

今回の東日本大震災は、エネルギーのもたらす利便性と必要性を知らしめ、私たちの価値観にも変化を与えています。ガソリンの不足は生活を不安にさせ、たった数日の暗闇は、いつまでも続くような気がしました。他者に頼りきっている状況にもどかしさを感じ、自給自足の意義について考えさせられました。両角教授の言葉「自分たちの持つ資源で、自分たちの手で行えるということが、一番の魅力」。この意味を、今一度考えてみたいと思います。

持続できるということは、未来へ続いていくということ。新エネルギーの取り組みは、新しい産業の構築や地域活性化への貢献が期待される、未来をつくる希望のプロジェクトです。

■問い合わせ 本庁政策企画課企画推進係 (内線415)